

那珂市おもてなし 観光ボランティアガイドマニュアル

観光資源・自然・歴史・伝統・文化財・大切に



市役所・一の関親水公園・白鳥



菅谷まつり(大助)



額田まつり

※那珂市の二大祭り三年に一度実施される・菅谷まつり（大助）・額田まつり

観光ボランティアガイド那珂

目次

はじめに（那珂市観光マップ）	01
那珂市の紹介	02
神崎地区スポット	03～05
①上宮寺 ②三嶋神社 ③発汗地蔵尊 ④本米崎稻荷	
額田地区スポット	06～14
①阿弥陀寺 ②淨鑑院常福寺跡 ③淡島神社 ④鱗勝院	
⑤引接院 ⑥額田城跡 ⑦鈴木家ヒイラギ ⑧額田神社参道山桜	
⑨水戸黄門お手植えの本榊⑩阿弥陀寺しだれ桜 ⑪鈴木家モチノキ	
⑫鱗勝院の大杉 ⑬毘盧遮那寺銀杏 ⑭鈴木家住宅 ⑮額田祭り	
⑯毘盧遮那寺 ⑰額田神社・山車会館 ⑱古民家鈴木 ⑲光照寺	
菅谷地区スポット	15～17
①不動院 ②菅谷鹿島神社 ③正覚寺 ④曲がり屋	
五台地区スポット	18～20
①根本正生誕地 ②清水洞の上公園 ③清水寺 ④吉田神社	
戸多地区スポット	21～25
①県民の森 ②熱帯植物館 ③龍昌院 ④戸村観音文殊院	
⑤歴史民俗資料館 ⑥戸村城跡 ⑦きのこ博物館 ⑧茨城県植物園	
芳野地区スポット	26～28
①藤田家祖先顕彰碑 ②一乗院 ③鷲神社 ④筑波神社	
木崎地区スポット	29～32
①駒形神社 ②蒼龍寺 ③門部ひよっこ踊り ④北向き地蔵尊	
⑤栗原の釣り場 ⑥白河内古墳群	
瓜連地区スポット	33～38
①斎藤監物の墓 ②常陸二宮静神社 ③瓜連城跡 ④弘願寺	
⑤常福寺 ⑥静峰ふるさと公園 ⑦古徳沼 ⑧静の棕の木	
⑨権現塚古墳 ⑩源太郎稻荷	
那珂市民話＆伝説	39～41
①たつあい話（☆筑波山のつかえ棒☆飛ばされたお寺の鐘 ☆あわてものたつあい ②北向き地蔵尊 ③大蛇の話 ④四匹の狐	
額田城跡＆水戸黄門ゆかりの社寺めぐり	42
額田城跡遊歩道へようこそ！	43
いい那珂暮らしナカマロちゃん	44

はじめに

この度、那珂市の観光スポットを案内するためのマニュアル作成いたしました。

どなたでも観光スポットの知識がなくともお客様に、案内できるよう工夫し、観光かるたの内容を織り込み、楽しくガイドできるように作成しました。

茨城県においても、おもてなし条例ができ、県を挙げて、お客様への対応を考えています。今後長きに亘って、観光ボランティアガイドの案内に幅広くご利用されることを望み、その一助ならんことを願うものです。

スマイルを絶やさずお客様それぞれのニーズに応えられるように、那珂市の観光スポットは、良かったと印象を与えられるよう、心がけていきます。

平成28年9月
那珂市観光ボランティアガイド那珂
会長 小田部一彦



那珂市観光マップ

一人ひとりが輝くまち・未来に夢をもてるまち那珂市へようこそ！



那珂市の紹介

那珂市役所＆一の関溜池親水公園・・那珂市福田1819-3

那珂市には、太古の古墳が各地に点在しています。 静神社祭人に深い関係のある權現塚古墳、水鳥が語るロマンがある白河内古墳群2号古墳、新地第一号古墳などがあります。 八幡太朗義家の伝説が各地に多く残されています。

鎌倉時代～戦国時代の城跡があります。 県指定の史跡、瓜連城、市指定の額田城、南酒出城、戸村城、古徳城他に多く残されています。

佐竹時代、徳川時代の建造物が各地に文化財として残されています。 神社は常陸の二の宮静神社、額田鹿島八幡神社、三嶋神社、他に数多く残されています。 寺院は、二十六夜尊の常福寺、日本一の毘沙門天像のある一乗院、親鸞聖人直系の阿弥陀寺、ほらふきたつあいの墓がある引接寺、お不動様と親しまれている不動院、その他数多く残されています。 県指定の文化財水戸光圀の娘万姫の嫁ぎ先鈴木家住宅の書院が保存されています。

天然記念物は樹齢300年以上の巨木が市民の協力により保存管理されています。 静の桂木神社のムクノキ、不動院の萱、三嶋神社の椎、鈴木家の柊、光圀お手植えの鈴木家の夫婦モチノキ、額田鹿島八幡神社の真榾、阿弥陀寺の枝垂れ桜他に多くの巨木あります。

那珂市は茨城県の中央部よりやや北に位置し、那珂川と久慈川の間に開かれた、緑豊かな田園地帯と住居地帯からなる台地です。 面積は約98平方km、人口は約5万6千人の緑豊かな風情に育まれた田園都市です。 中心部には常磐道那珂インターがありJR水郡線、太田線が通り市内には9ヵ所の駅があり都心へのアクセスが便利です。 水戸市、ひたちなか市、常陸太田市、常陸大宮市、日立市、城里町、東海村に隣接し、農産物のブランド化と宅地開発が進みこれからも益々発展する「住みよいまち那珂市」です。

県民の森、茨城植物園など四季折々に楽しめる憩いの公園があります。 春は日本のさくら名所100選の静峰公園の八重さくらまつり、夏はなかひまわりフィスティバル、晚秋から冬には古徳沼や一の関溜池親水公園に白鳥飛来します。 3年に一度の菅谷地区鹿島神社大助まつり(提灯祭)、額田地区額田鹿島八幡神社の額田まつりは盛大に行われ多くの人々で賑わいます。

「一人ひとりが輝くまち・未来に夢をもてるまち」那珂市です。



市章



市の花ひまわり



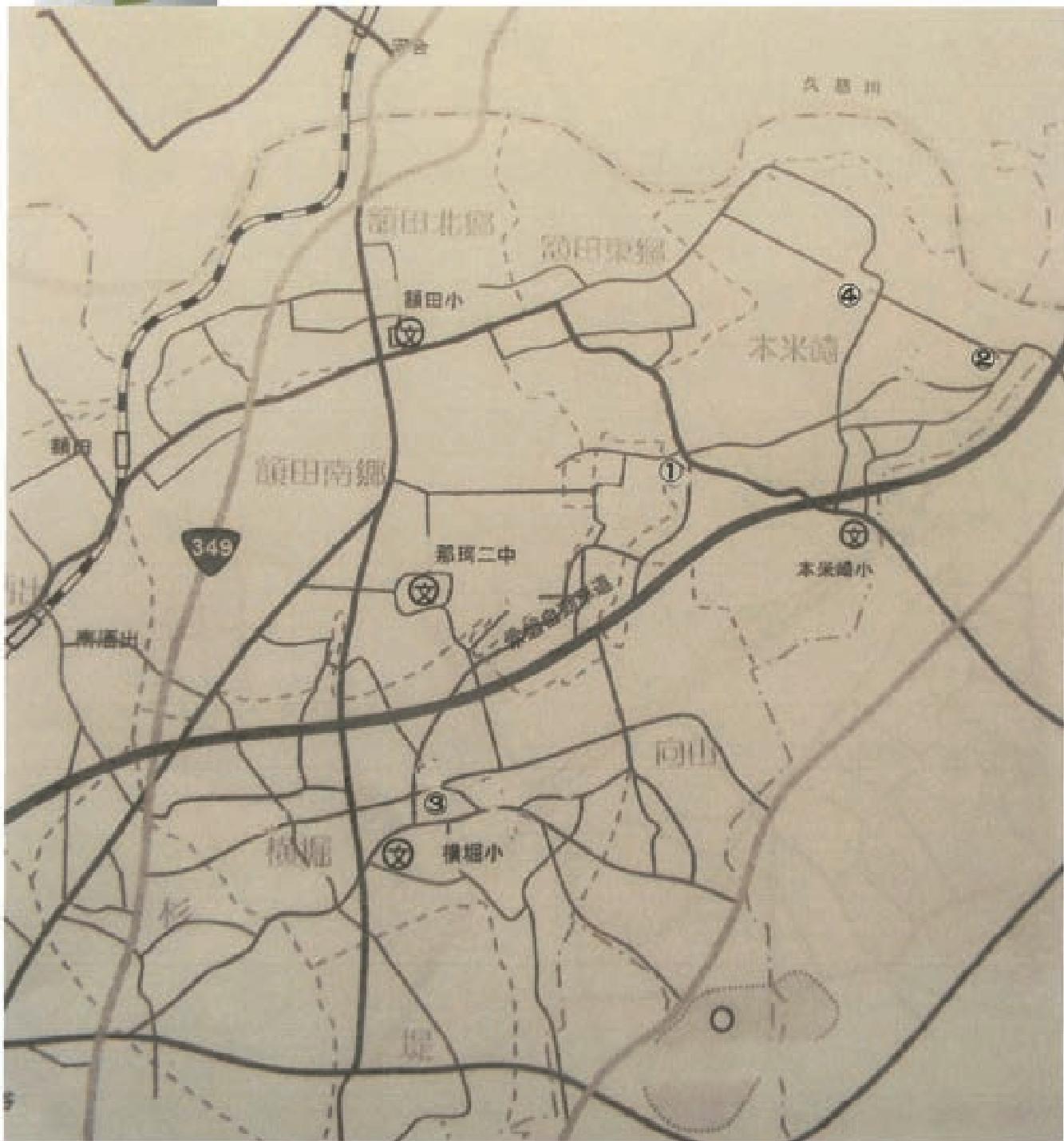
市の木八重桜



市の鳥白鳥



神崎地区スポット



①上宮寺 ②三嶋神社 ③発汗地蔵尊 ④本米崎稻荷(甚二郎稻荷)

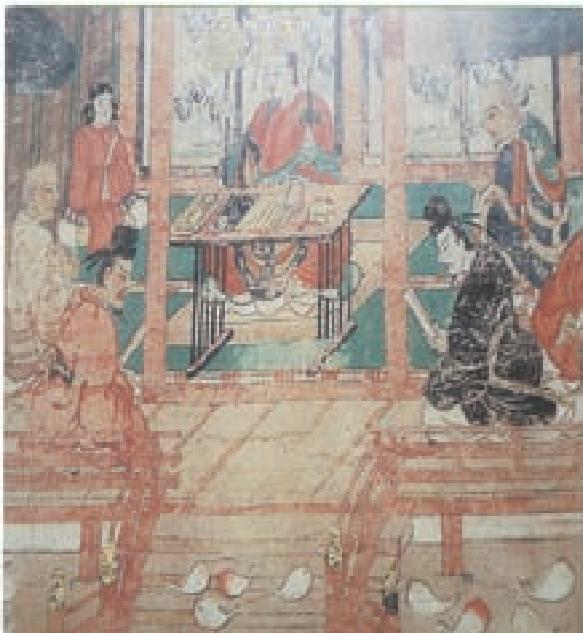
モデルコース 上宮寺→三嶋神社→本米崎稻荷→発汗地蔵尊
※車約2時間、距離約5km。トイレ、駐車場あり



地区住民が守る観光資源！

神崎地区スポット

上宮寺あり
絵伝
國宝正徳太子



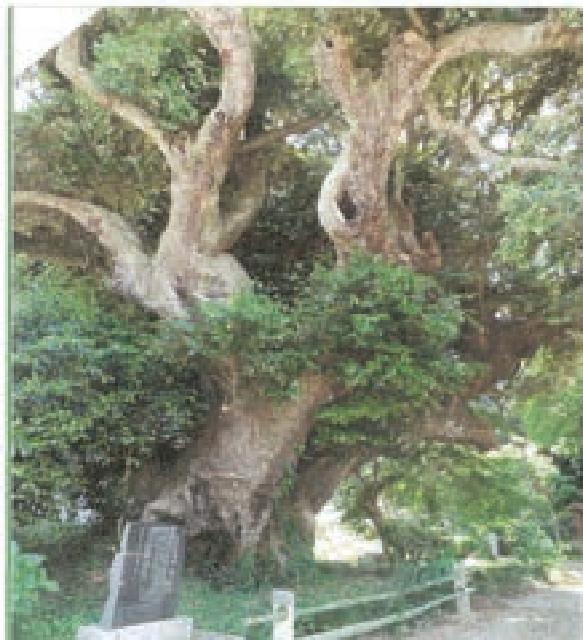
①上宮寺国宝聖德太子繪伝

本米崎にあり、檜原山正法院上宮寺。浄土真宗。

承久3年（1221）年10月に塔之檜原谷（現常陸大宮市東野）に親鸞の弟子明法坊（24輩19番弟子）が創立し、天正5年（1577）額田に移され、さらに天正11年（1583）現在地に移られた。

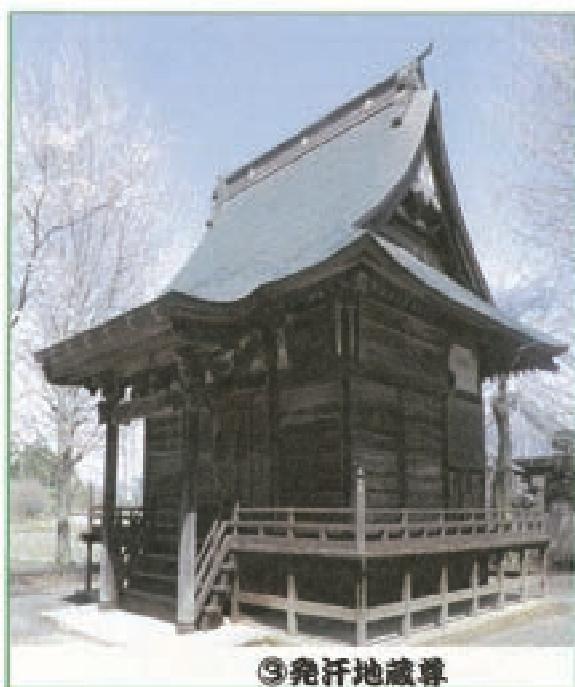
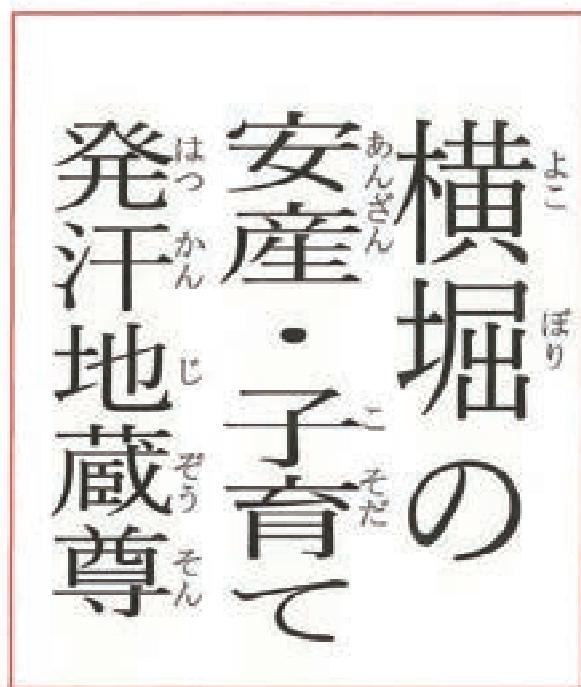
文化財・紙本着色聖徳太子繪伝（国指定重要文化財）その他・関東御名残御見影（親鸞自作）・明法坊木造像（明法坊自作）

三み九椎の
嶋しま百年
神じん繁しげ
社じやる大樹たいじゆ

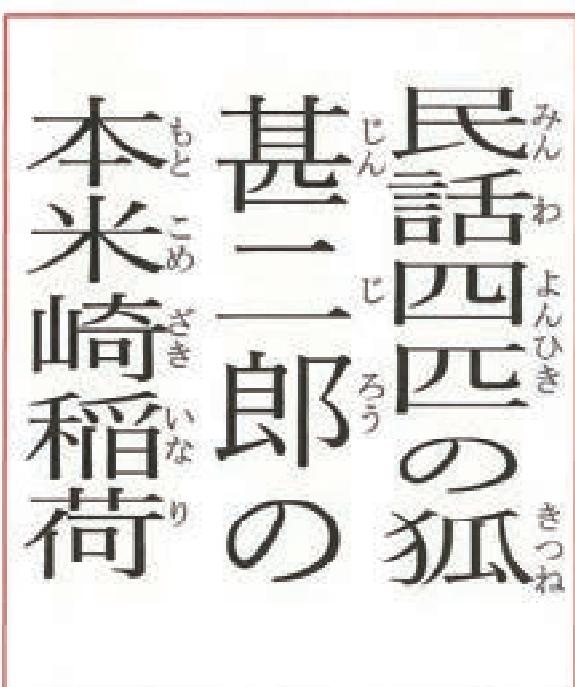


②三嶋神社椎の大樹

本米崎にあり、創建は和同年間（708～715）と言われている。本米崎には元禄年間まで氏神を祭る6社があったが、水戸光圀の社寺改革により三嶋神社が村の鎮守とされた。天然記念物・樹齢900年の椎の大樹（市指定）・桜田門の変の志士18人の1人海後碰磯之介の誕生神社



横堀にあり、地蔵尊は300年前ほどに、現ひたちなか市の東聖寺住職が創建したといわれています。安産守護地蔵尊で、この地蔵尊に祈願した妊婦が分娩中、ご尊体を仰ぐと全身に流れるような汗を配すると伝えられている。地蔵尊は大悲大慈の仏で四八身を示現して衆生救うので、子育て延命地蔵尊と言われている。



本米崎にあり、民話「四匹の狐」甚二郎稻荷
静の森に暮らしていた兄弟狐。長男源太郎は瓜連城、甚二郎は米崎城、紋三郎は笠間城
四朗介は湊城守りに神として祭られています。



額田地区スポット



- ①阿弥陀寺②淨瑠璃帝釋寺跡③浜島神社④鱗勝院⑤引接寺⑥額田城跡⑦鈴木家ヒイラギ
⑧額田神社参道山桜⑨水戸黄門お手植えの木柳⑩阿弥陀寺枝垂れ桜⑪鈴木家モチの木
⑫鱗勝院杉⑬毘盧遮那寺銀杏⑭鈴木家住宅⑮額田まつり⑯毘盧遮那寺⑰額田神社・山車
会館⑯古民家鈴木の光照寺

モデルコース：額田交流センター→額田城跡→阿弥陀寺→引接寺→鱗勝院→鈴木家住宅
→毘盧遮那寺→額田神社（山車会館）→浜島神社→額田交流センター戻り
※徒歩約4時間、距離約5km、トイレ、駐車場あり



地域の絆額田まつり！

額田地区スポット

鐘の音
かねおと
しだれ桜
さくら
阿弥陀寺
あみだじ



①阿弥陀寺

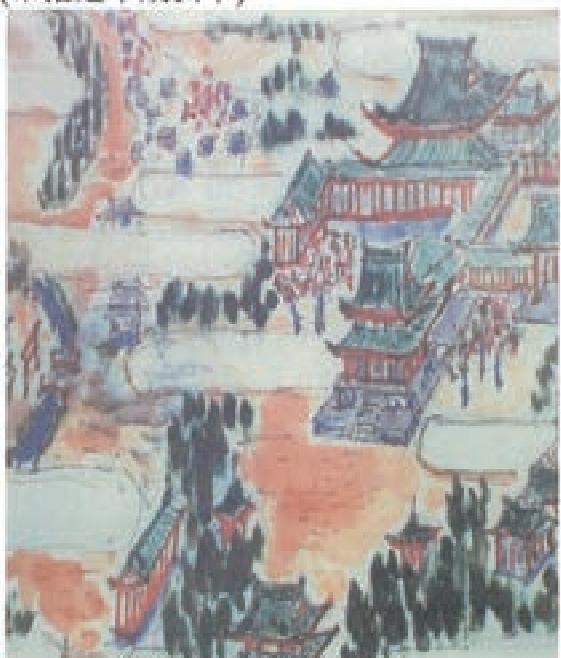
額田南郷・大山禪坊阿弥陀寺・浄土真宗・親鸞聖人二十四輩十四弟子、定信創建が現城里町阿波山に建保5年創建。明徳3年額田城内に移る。慶長7年秋田に移る。その後額田に戻り寺を再興し、明治2年廃仏毀釈令により廢寺。明治12年に復興現在至る。

ポイント
・水戸光圀お手植えの枝垂れ桜樹齢300年、見頃毎年3月下旬～4月上旬
・水戸光圀の養女鈴木家に嫁いだ万姫の墓

文化財
・木造阿弥陀如来立像(県指定昭和46年)

・紙本墨書太祖聖人面授口決交名記(市指定平成14年)

淨鑑院常福寺
じょうかんいんじょうぶくじ
向山にしえの



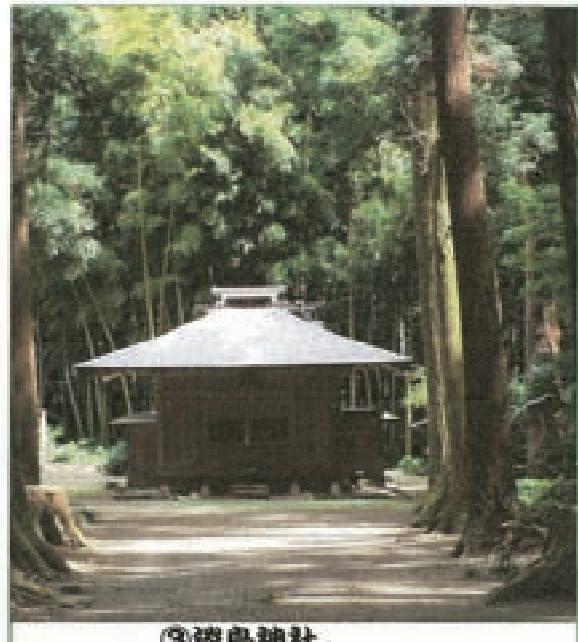
②淨鑑院伽藍想像図

額田南郷・水戸徳川家の菩提寺として、水戸二代藩主徳川光圀が元禄2年建立、浄土宗。水戸藩の社寺改革で廢寺となり、幕末天狗諸生の騒乱で伽藍焼失（現在の2中付近）
・ゆかりの寺引接寺

淡島神社
あわしまじんじゃ

昔も神頼み
むかし かみたの まことみ

縁結び今も
えんむす いま



③横島神社

額田北郷、正保元年(1644)紀州加太から観請された。農業や酒造・医術裁縫などの術神徳持つ神々を祀り、特に裁縫の神、安産の神として信仰された。針供養には昔は多くの老若男女の参詣で賑わった。

ポイント・本殿見事な彫刻。

守られて
まもられて

佐竹の家紋に
さたけのかもん

静寂な鱗勝院
せいじやくなりんじょいん



④鱗勝院

額田南郷。義峰山鱗勝院、曹洞宗。元徳2年(1330)額田氏の祖先の菩提所放光寺として創建された。文安2年(1445)現在地に移り、鱗勝院と改称。享保2年(1717)再建された。静寂の中に時を忘れさせる雰囲気があり、初代額田城主を供養する五輪塔があります。寺紋は佐竹氏の紋を使用している。

ポイント・天然記念物大杉(市指定)

引接寺

頓智が眠るの
たつあいの

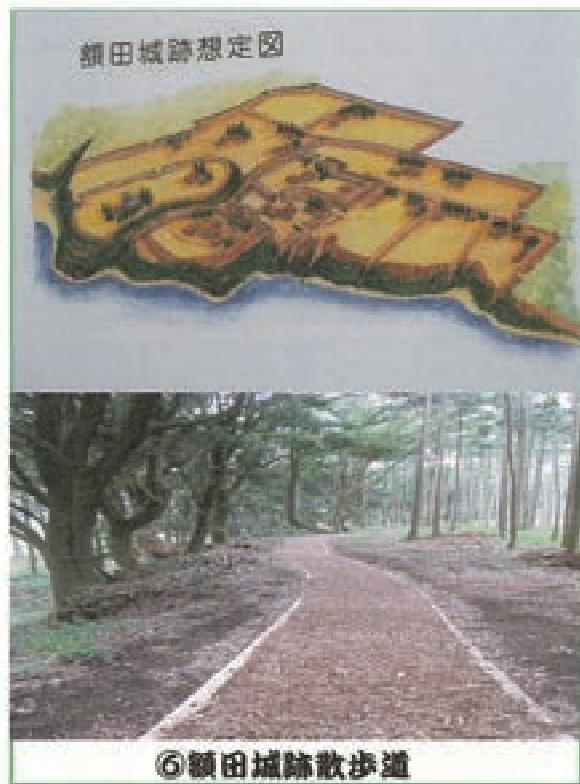


⑤引接寺

額田南郷にあり、光圀山攝取院引接寺。浄土宗。水戸光圀によって元禄9年(1696)向山の淨鑑常福寺の末寺として創建された。江戸時代から明治の初めまで水戸徳川家の葬式際しては、瑞龍山墓所に埋葬する間靈棺の宿寺であった。
文化財・木造阿弥陀如来立像及び両脇侍立像(県指定)・民話蛇つつあいの墓・水戸三代藩主綱條と兄綱方の実母暗月院供養塔・

額田城跡本丸

二の丸歴史を
刻む散歩道



⑥額田城跡散歩道

額田南郷にあり、標高27m、本丸跡は、約7~8mの堀に囲まれた山林で面積は約16000m²二の丸跡・三の丸堀と土塁まで含めた総面積は約77000m²。中世の城跡として現存している。
城の歴史は、建長年間(1249~1256)佐竹氏5代義重の2男義直が築城し、額田と称した時から始まる。10代義亮の時、佐竹本家と対立し、応永31年(1424)佐竹13代義人に攻められ落城し額田氏は滅ぶ。その後、義人の家臣小野崎氏が額田城主なり、以後7代照通まで続いたが、天正19年(1591)佐竹氏20代義宣に、照通異心ありとして、攻められ落城、照通は陸奥へ亡命し、以後廃城になる。

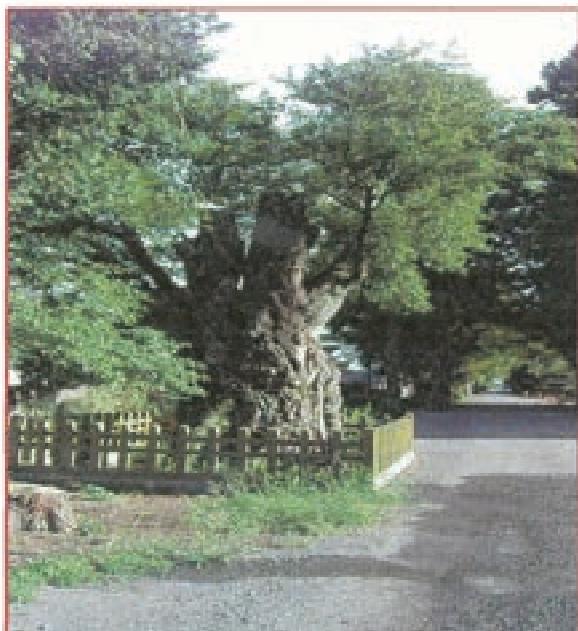
大樹めぐりのんびりと

額田の郷の
だいじゆのくわいの
ぬかださと



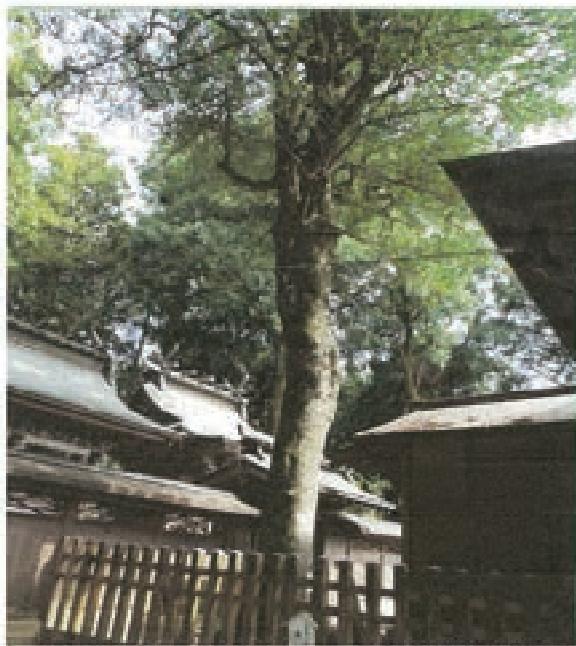
⑦鈴木家のヒイラギ樹齢300年

額田地区は、鎌倉時代から江戸時代にかけて栄えた宿場町であった。佐竹一族が築いた中世期最大級の額田城跡や、水戸黄門ゆかりの社寺、黄門養女万姫の嫁ぎ先の鈴木家住宅、巨木が点在し、豊かな自然と歴史の古さを感じさせ人の心を引き付ける地域です。
※大樹巡りコース・約4km・3時間・※寺社巡りコース約4km・時間4時間(額田城跡含む)



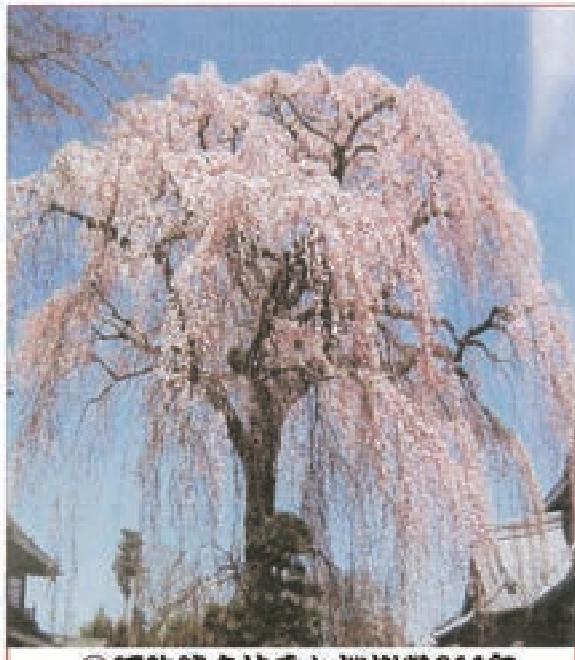
⑧額田神社参道樹齢500年山桜

額田神社参道の中間にあり東のさくらの横綱と言われている。
樹高8m・目通り周囲10m・根廻り10m
幹は空洞になっているが、今は曾孫枝が毎年見事な花を咲かせます。



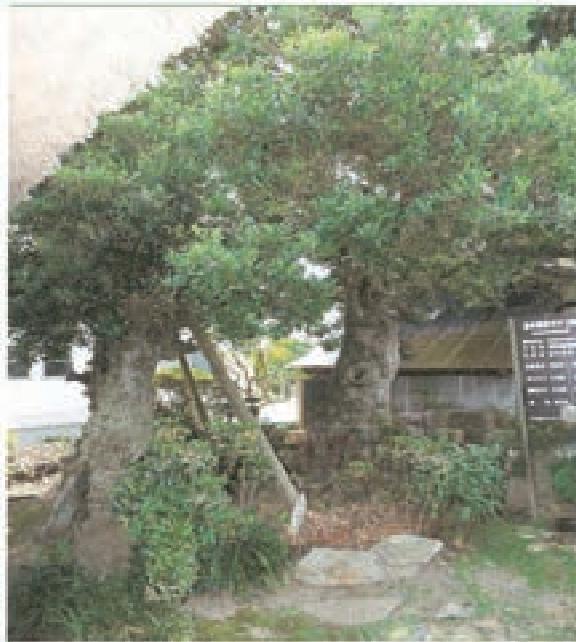
⑨水戸光圀お手植えの本榦樹齢350年

水戸黄門のお手植えの本榦は本殿内にあり・樹高15m・目通り周囲2m・根廻り6m
榦には本榦と姫榦(ひさかきがある)
本榦・・姫榦に比べて葉が大きい
姫榦・・本榦に比べて葉が小さく葉の
周りがギザギザしている



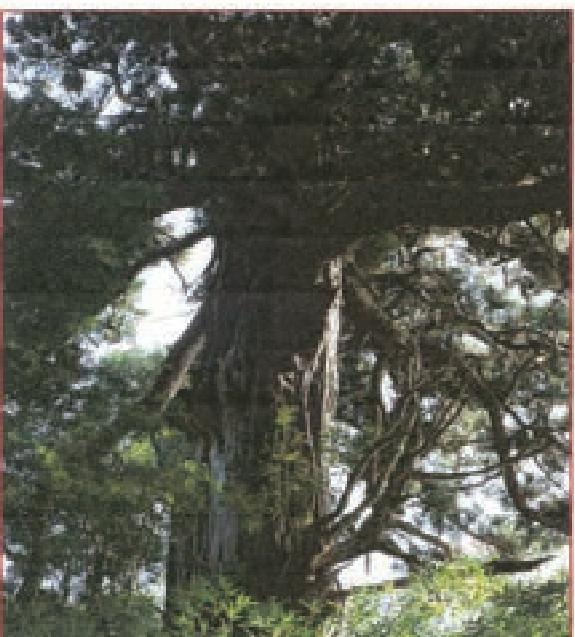
⑩阿弥陀寺枝垂れ桜樹齢300年

樹高15m・目通り周囲3m・根回り8m
水戸黄門お手植えの枝垂れ桜と伝えられている。
毎年4月下旬から5月上旬ころが見ごろ
でライトアップは見事です。



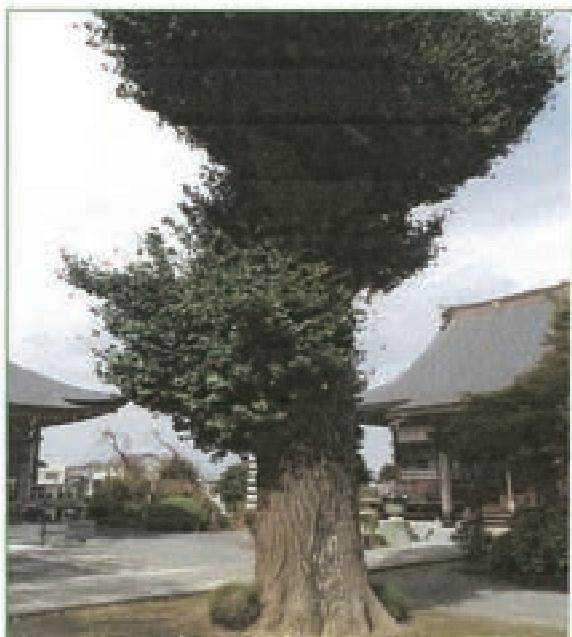
⑪神水家のモチ樹齢300年

市指定天然記念物・
樹高10m・目通り周囲2.2m・根回り5m
水戸黄門お手植えの2本のモチノキ
前庭の築山に植えられ書院と構成している。



⑫般若院大杉樹齢500年

市指定天然記念物
樹高22m・目通り周囲4.5m・根回り10m
本殿の北側斜面にあり、のびやかな姿
は素晴らしい。



⑬毘盧遮那寺いちょう樹齢300年

樹高15m・目通り周囲5m・根回り9m
本殿の前に有り、秋には黃金色になり
観音堂との景観は素晴らしい。
※銀杏の木が社寺に多いのは
・防火の対策や(燃えにくいため)
書物の防虫剤として利用した。

鈴木家住宅 水戸黄門ゆかりの 県指定文化財



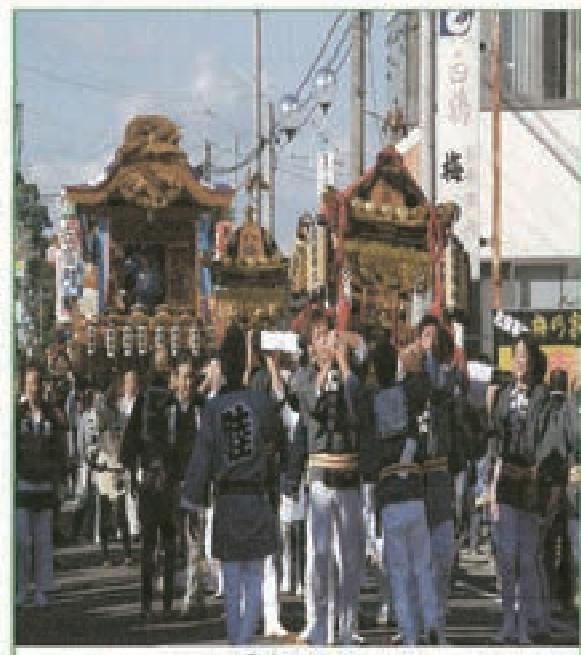
⑭鈴木家住宅

額田南郷にあり、水戸藩時代庄屋を務め、歴代当主は市十郎を襲名。紅花や綿縫糸卸商とし財を成し、水戸黄門の養女万姫を迎えた。黄門や歴代の藩主が西山荘に往復の途中立ち寄り、宿泊に用いた書院があります。書院は母屋と別に離れ座敷になつおり、貞享4年(1687)黄門が宿泊するのに建てられたと伝えられている。

文化財・鈴木家住宅(県指定)

天然記念物・樹齢300年の双樹モチノキ(市指定)

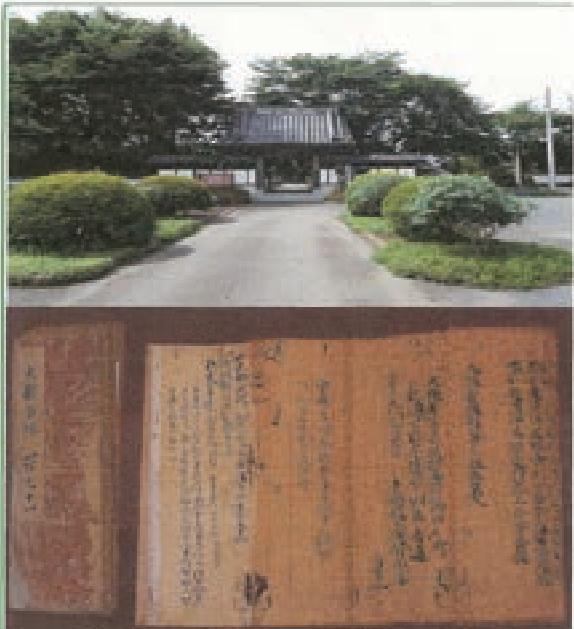
額田まつり 山車と神輿の乱舞する



⑮額田まつり

額田地区にあり、額田神社の大例祭が中心で3年に1度開催される。神前の嚴粛で優雅な神事の後、各町内の老若男女による華やかな躍動感のある神輿と彫刻山車5台の巡行があり、錦旗、五色旗、神具、武具、神官、巫女を中心に陣羽織姿の従者そろった行列は見事です。

毘盧遮那寺 大般若経六百巻



⑩毘盧遮那寺・大般若経六百巻

額田北郷にあり、両部山宝光院毘盧遮那寺、真言宗。

京都嵯峨野大覺寺末寺になっている。創建は建久3年(1192)文覚上人が開基、元は森戸山宝光院毘盧遮那寺といった。森戸宝光坊が建立したのが始まりである。宝光坊は、鹿島、八幡神社の社僧として働き、別当を兼ねていた。元禄11年水戸光圀の命により向山移り寺運が傾いた時期があった。正徳元年(1713)現在地に戻り伽藍を修理して隆盛な時代を迎えた。

文化財・紙本墨書大般若経600巻(県指定)・木造阿弥陀4如来立像(市指定)

額田神社 彫刻屋台 爛漫と



⑪額田神社・山車会館

額田北郷にあり、昔は、八幡神社康平6年(1063)と鹿島神社大同年間(806~10)創建の2社があった。江戸時代になって水戸光圀はこの2社を一つに合祀し、鹿嶋八幡神社として社殿を改築して、額田神社と命名した。明治になり額田神社の名称を廃して鹿嶋八幡神社に戻した。本殿には2社祀られている。神社の大例祭は3年ごとに行われる。「額田まつり」として地区あげてのまつりとなっています。現存する山車5台の華麗な彫刻が見ものです。

文化財・光圀奉納の神器・神鏡・狛犬(市指定)・光圀お手植えの真榦・会澤正志斎昌額「額田神宮」

休養日
きゅう よう び

古民家で
こみんか

カフェを楽しむ
たの しむ



⑩古民家鈴木家

額田北郷にあり、鈴木の分家で築150年以上経過している木造の建物、室内天井は小屋組が見事です。作品の展示、休憩所としても利用できます。又、屋敷内は額田まつりの山車が保管されています。※見学は予約

光 照 寺
こう しょう じ

渡る先には
わた さき には

跨線橋
こせんきょう



⑪光耀寺

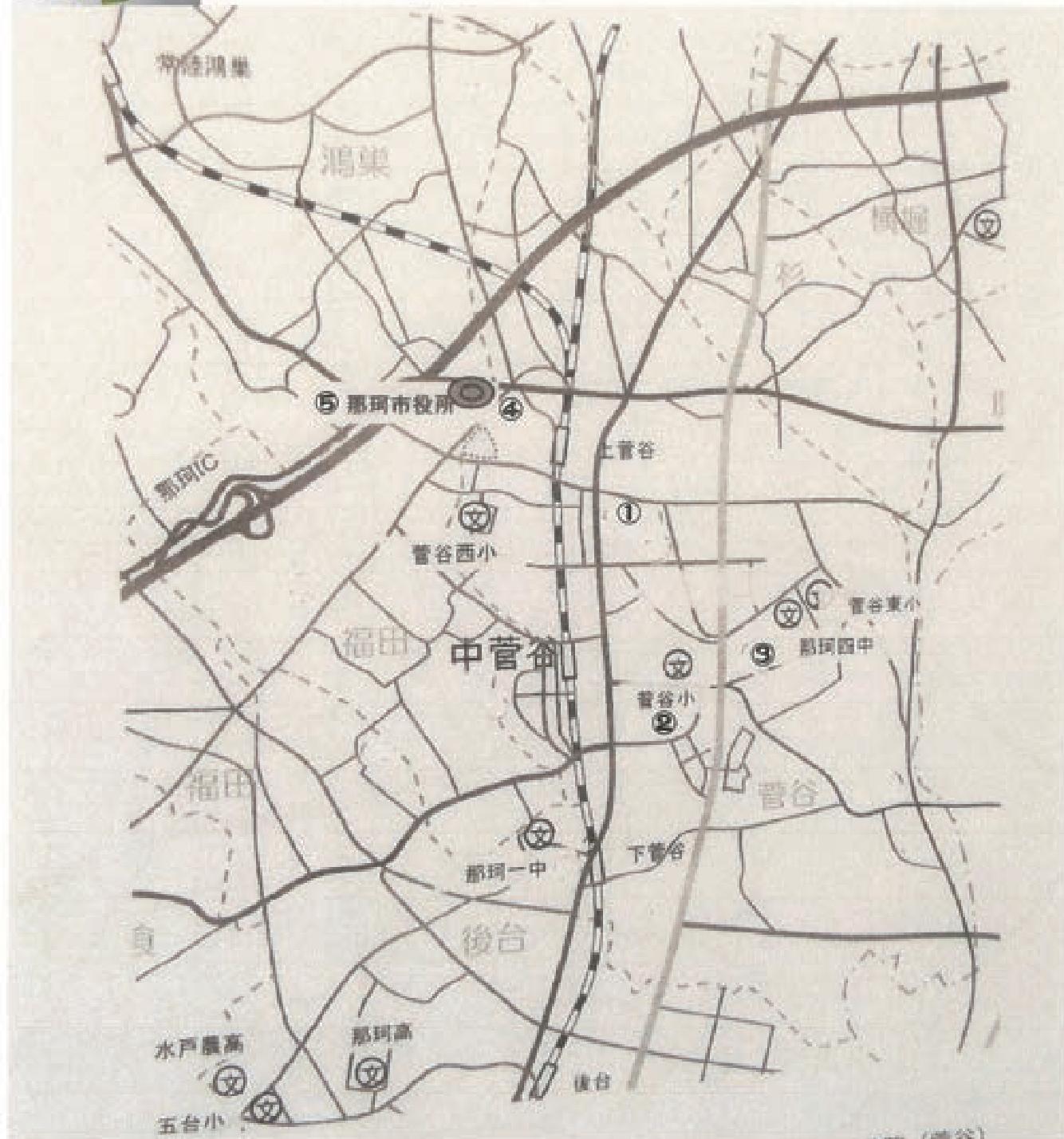
額田北郷あり・天神山護国院光耀寺・浄土真宗・

大洗願入寺の末寺である。開基帳によれば久米村の願入寺八世の如空が弘治2年(1556)建立。天正17年(1589)頃江戸氏と額田氏の衝突の際、額田に味方する門徒衆が天神の森に小屋を作りとどまったという。

現在は無住職、常陸太田市の西光寺が管理している。JR常陸太田線の跨線橋を渡る珍しい寺である。また、境内からは久慈川を見下せる風光明媚の場所です。



菅谷地区スポット



①不動院 ②菅谷鹿島神社 ③正覺寺 ④曲がり屋 ⑤那珂市役所

モデルコース 市役所→不動院→正覺寺→鹿島菅谷神社→曲がり屋（一の関溜池公園）→市役所
戻り

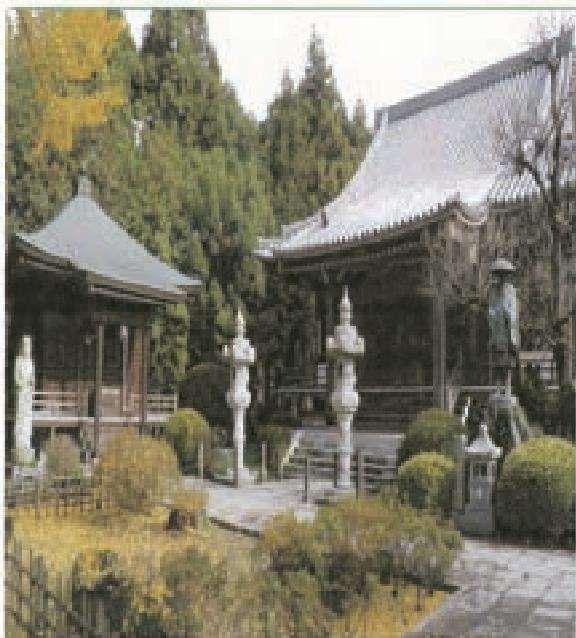
※時間徒步約2時間4時間、距離約4km、トイレ、駐車場あり



地区の観光資源伝説・伝統未来につなごう！

菅谷地区スポット

歴史あり
カヤの大樹に
不動院



①不動院

菅谷にあり、武田山不動院大聖寺。真言宗。ここには元、鹿嶋神社、八幡神社の、両宮があった。両宮の神宮寺として、応永29年(1422)3月に創建された。延宝3年(1675)徳川光圀の命により、照法師を中興開山とし、荒廃していた寺を再興し、武田山不動院大聖寺と改めた。不動堂は元禄2年(1689)金剛院宥信が建立し、お不動様として多くの人々に親しまれています。天然記念物・樹齢600年カヤ(県指定)・樹齢300年銀杏(市指定)文化財・木造胎蔵界大日如来(県指定)

大助まつり
菅谷鹿島神社
伝統誇る



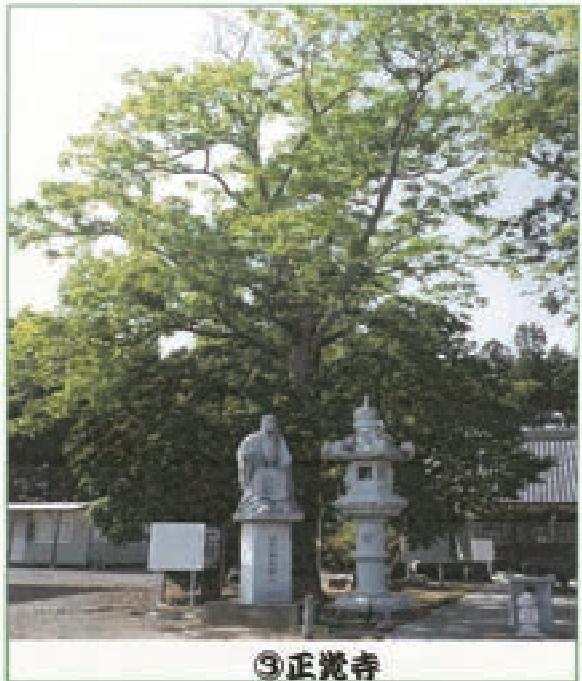
②菅谷鹿島神社

菅谷にあり、元禄9年(1696)水戸光圀が八幡宮を廃し、鹿島明神のみとし、別に寄居に八龍神(船寄明神)奉りました。水戸九代藩主齊昭は両宮を廃し、新たに北の内に境内を定め社殿を設け、安政4年(1854)1月に鹿島明神を迎えた。

神社の大助まつりは俗に菅谷の提灯祭りとして広く知られています。現在は菅谷まつりとして3年に1度実施され多くの人々でにぎわいます。

文化財・三十六歌仙扁額(市指定)・無形文化財大助ばやし(市指定)

正覚寺 珠^{たま}で名^な高^{たか}いの



⑨正覚寺

菅谷にあり、徳壽山慶乗院正覚寺。浄土真宗。比叡山延暦寺二世慈覺大使の命により承和年間(838)建立し光祥院(天台宗)と号した。その後、親鸞の孫如信上人が奥州大綱より出て光祥院に立ち寄った時に、住職の春政は弟子となり、淨讚坊と号した。西安2年(1300)光祥院改め徳壽山慶乗院乗讚坊として浄土真宗に改宗し、現在に至る。天然記念物・樹齢200年ムクロジ(市指定)

心醉^{こころよ}う 月見^{つきみ} 曲がり屋^ま の宴^{えん}や のに



⑩曲がり屋月見の宴

菅谷にあり、文久2年(1862)市内戸崎に建てられた茅葺屋根の農家で、市内最後の曲がり屋ということで、保存することになり、平成10年から一関ため池親水公園内に移築が始まり翌年6月に復元された。曲がり屋とは、母屋とつながる土間と馬小屋がカギの手に突き出した形になっている建築様式。屋根には囲炉裏端やかまどから出る煙を出す「煙出し」という窓があり、棟飾りには「水」「壽」「龍」の文字が記され、火伏、厄除けの意味が込められている。年間の催事は、春の吊るし雛展、秋の月見の宴、などです。



五台地区スポット



①根本正生誕地 ②清水洞の上公園 ③清水寺 ④吉田神社

モデルコース 清水洞の上公園→清水寺→根本正生誕地→吉田神社
→清水洞の上公園戻り
※時間徒歩約1時間、距離1.5km、トイレ、駐車場あり



地区が守る自然・歴史・伝統・文化財！

五台地区スポット

根本正生誕地



①政治家・根本正生誕地

東木倉にあり、那珂市の名誉市民第一号です。嘉永4年（1851）～昭和8年（1933）。現那珂市東木倉生まれ。水戸藩の役人だったが、明治4年（1871）に上京し、人力車夫をしながら勉学に励む。ヨーロッパの文化に影響を受け、新しい知識を得るために28歳でアメリカに渡り、小・中学校を経て、バーモント州立大を卒業。在学中にキリスト教の実態に触れ、合理主義、独立不撓の精神を学び身に付けた。帰国後衆議院議員になり、国民教育授業料の全廃の建議・未成年者禁煙・飲酒禁止法、木郡線鉄道建設に関する建議など成立させ、政治家として高く評価されている。

顕彰碑・生誕地碑（東木倉）・顕彰碑（一関公園）・胸像（大子駅前）

清水洞の上公園



②清水洞の上公園

東木倉あり、面積は約3ha、豊富な湧き水がある池や山林、水戸光圀建立の清水寺、天然記念物大杉など豊かな自然が残された地域です。これを保護して地域住民の憩いの場を提供する目的に木道、湧水池、観察池、東屋、トイレ、駐車場東野整備し平成23年に「清水洞の上公園」が誕生しました。公園の管理は地域住民の「清水洞の上自然を守る会」が管理しています。

清水建 立の水戸光 圏

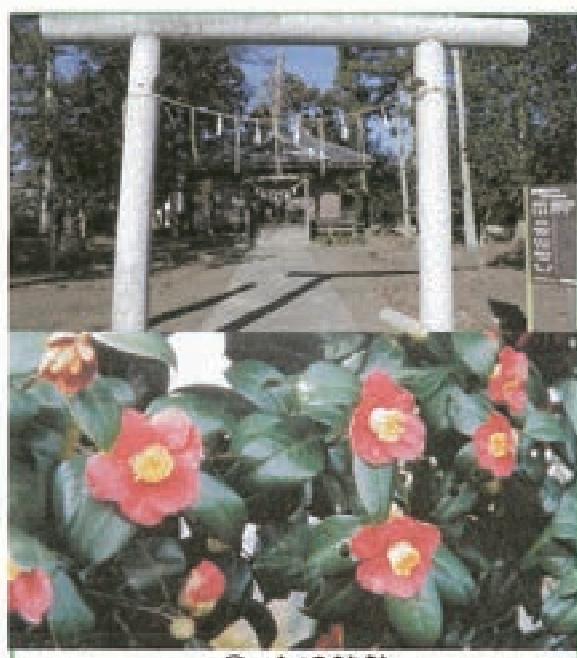


③・清水寺

東木倉にあり、東臘山清水寺。曹洞宗。水戸の祇園寺を開山した明の東臘心越の高弟吳雲が水戸光圏の命により元禄10年（1697）建立したという。明治2年（1869）旧藩神祇局からの申し渡しによって廃寺になり、清水神社になり、明治43年（1910）嚴島神社とともに村内の吉田神社に合祀された。元の地に清水寺が再興された。大正12年（1923）焼失。昭和7年（1937）再建現在に至る。無住職、区が管理している。

境内には天然記念物大杉（市指定）樹齢500年・樹高30m・目通り6m・根回り9m

吉田神社 椿の大樹 天然記念物



④・吉田神社

東木倉にあり、創立年代不詳。若宮八幡宮を祭祀していたが徳川光圏の命により元禄9年（1696）吉田神社と改めた。明治34年（1910）村内の清水神社、嚴島神社を合祀した。

天然記念物・椿（市指定）・樹齢300年、樹高8m、目通り1.6m、根回り2.1m
幹はやや傾斜し、歴史を感じさせ、冬には深紅の花が見事です。



戸多地区スポット



①県民の森 ②熱帯植物館 ③龍昌院 ④戸村觀音文殊院 ⑤民俗資料館⑥戸村城跡
⑦きのこ博物館 ⑧浜城県植物園

モデルコース 龍昌院→戸村城跡→戸村觀音文殊院→龍昌院戻り

※時間徒歩1時間30分、距離2*。トイレ、駐車場あり

モデルコース 県民の森→植物園→熱帯植物館→きのこ館→民族資料→県民の森戻り

※時間徒歩約3時間、距離6*。トイレ、駐車場あり



自然環境を大切に！

戸多地区スポット

散歩路 四季折々の森



①県民の森

戸崎にあり、緑を通して心のふれあいを広めていくため、明治100年(昭和43)を記念して造られました。アカマツの自然林の散策、四季折々の草花や小鳥のさえずりを聴くことができます。植物や野鳥の種類も豊富で、コナラ、カシ類シュンラン、ヤマユリなど約360種類の樹木や山野草が自生するほか、季節によりサンコウチョウ、カワセミ、サシバ、フクロウなど約70種野鳥を見ることができます。

学習館 四季観察できる熱帯植物



②熱帯植物館

戸にあり、東南アジアの熱帯、亜熱帯に生息する植物約240種、約2300本を集め、四季を通して観察し、学習できる施設として造られました。館内は、畑地、沼地、ジャングル、丘陵地ゾーンに区別され、ハナナ、ババイヤなどの果樹、ガジュマルやアコウなどの熱帯樹林が見られます。展望台からの眺望や、映像室での熱帯雨林の画像も楽しむことができます。

龍昌院 再建された 常陸野に



③龍昌院

戸にあり、瑠璃山龍昌院薬師寺。曹洞宗。開基は戸村城主吉弘である。佐竹氏の国替えの際に、戸村義国は龍昌院の什器一切を秋田に移した。残った建物は寛永12年焼失。延宝4年(1676)桧山左衛門を中興の開基として再建された。明治41年(1908)風水害で堂宇が倒壊し、昭和63年(1908)本堂、庫裏を再建し、平成19年には開祖500年を記念して山門が建立された。

親しまれ 世の人々に 戸村觀音文殊院

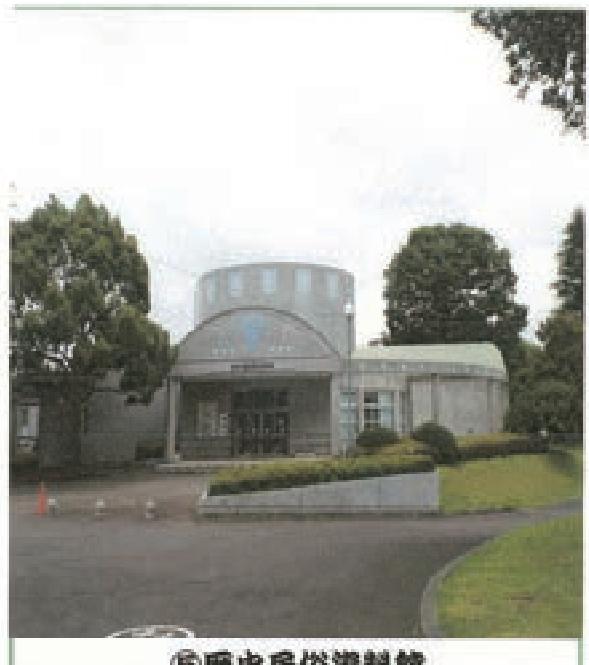


④戸村觀音文殊院

戸にあり、朝日山文殊院乗蓮寺。真言宗。創建は永承年間(約900年前)であった。代々戸村城主戸村氏の祈願所として崇敬され、寺紋は佐竹氏の紋を使用している。昔から戸村の觀音様として安産、子育ての信仰が厚く、毎年4月17日縁日には近隣からの多くの人々でにぎわいます。平成17年には境内に弥勒会館が建設され、文殊院の布教活動のほか、絵画、写真などのアート展やミニコンサートなどの音楽活動が行われています。

民 俗 資 料 館

一 目 で わ か る 那 珂 市 の 歴 史

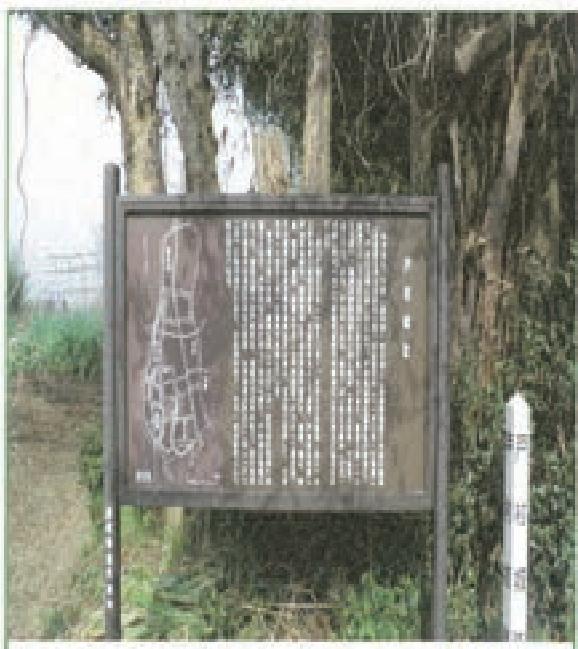


⑤歴史民俗資料館

戸崎にあり、平成6年市民のふれあいの拠点として、那珂運動総合公園内に開館いたしました。展示館全体は前方後円墳の形をしています。常設展示内容は古代、中世、近代に渡り、市に関わる資料が展示されています。また、季節ごとの展示も行われています。

戸 村 城 跡

糸 を 手 繰 れば 友 好 の

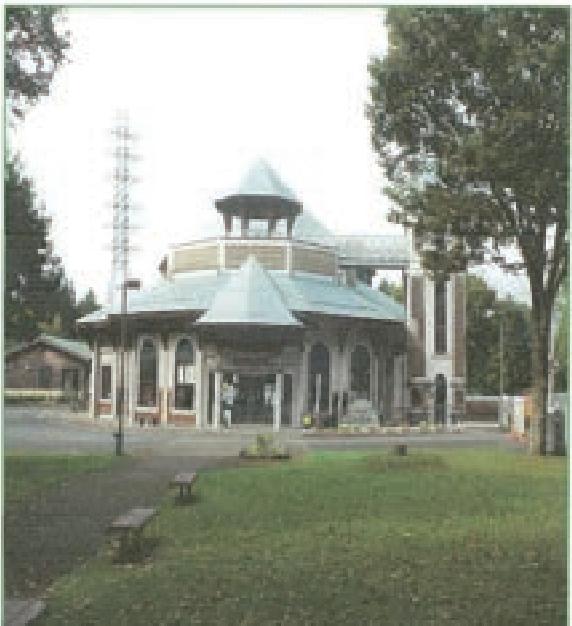


⑥戸村城跡

戸にあり、現在は宅地化されわずかな土里と案内板のみがある。承暦元年(1116)戸村能俊によって築かれた。建武3年(1336)戸村氏6代又五郎は南北朝時代に南朝方につき北朝方佐竹に敗れ滅亡した。その後、佐竹12代義人の子、義俊が寛正元年(1406)古城であった、戸村城を修復し戸村と称した。以後代々続き慶長7年(1602)佐竹本家が秋田国替えになると、それに従つて移り廃城なりました。その後、寛文12年(1675)横手城代になり、以後秋田藩が廢藩になるまで戸村家当主が横手城代を継承してきたという。歴史的経過から横手市と平成16年姉妹都市を結び交流を深めている。

きのこ博物館

きのこのことなら
全てがわかる
山野草のことなら

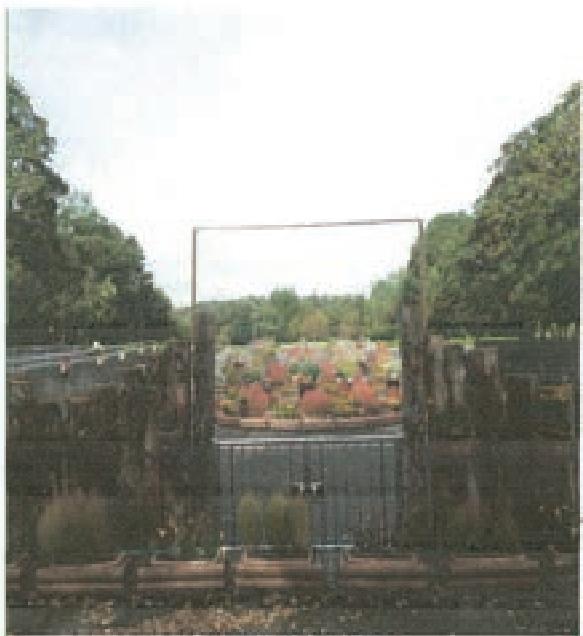


①きのこ博士館

戸にあり、きのこや山菜、うるし、竹などの種類や生態はもちろん、人とのかかわりから森林の役割まで楽しみながら学べる施設として平成10年に開館しました。幻想的な雰囲気が楽しめる館内は各種の展示室があります。映像、グラフィックス、模型など、エントランスホールには特用林産物の実物も展示しています。

茨城県植物園

茨城県植物園
四季折々
楽しめる憩いの場

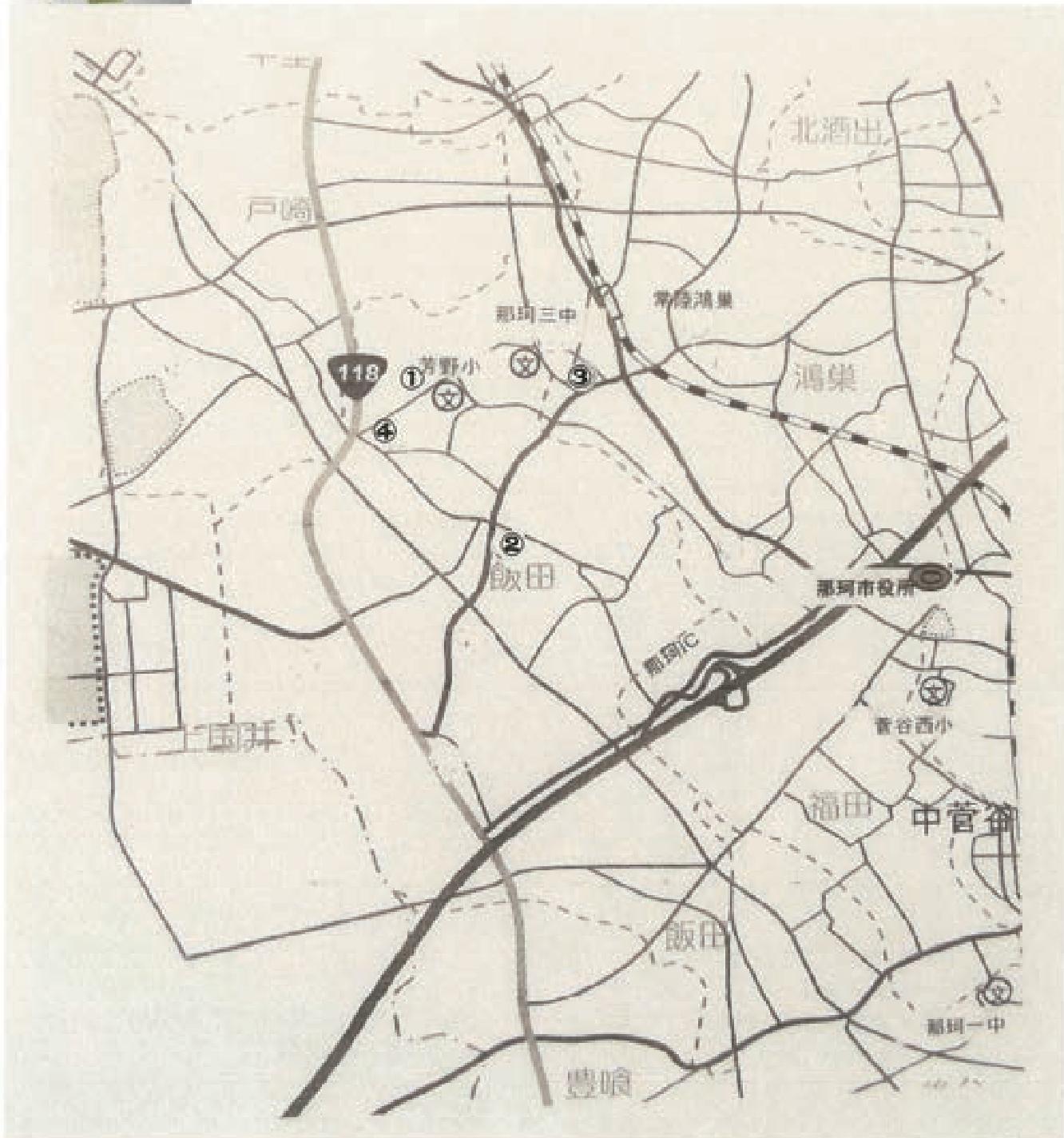


②茨城県植物園

戸にあり、植物の知識が学べる憩いの場として、昭和56年に開園しました。約600種、約5万本の植物が、四季折々訪れる人達の目を楽しませています。噴水のある、小さな沈床園、回遊式庭園の岩石園、いろいろな動物をかたどった植物造形園、たくさんの種類を集めたカエデ園、ツバキ園などのほかに広々とした芝生園が子供たちの人気になっています。



芳野地区スポット



①藤田家祖先顕彰碑 ②一乘院 ③鶴神社 ④筑波神社

モデルコース 一乗院→筑波神社→藤田幽谷・東湖顕彰碑→鶴神社→一乗院戻り

※時間徒歩約2時間、距離約4km、トイレ、駐車場あり



地区的観光資源見つけよう！

芳野地区ポイント

やすらかに
祖先顕彰碑
藤田幽谷・東湖



①藤田・幽谷祖先顕彰碑

飯田にあり、藤田家祖先は、平安時代前期の公家・文人の小野篁と伝えられている。東湖の曾祖父は、水戸藩飯田村中島で代々農業し自作農であった。江戸時代中頃曾祖父は水戸商家の徒弟奉公に精を出し、やがて城下に一軒家を構えることになった。祖父言徳代に古着屋「藤田屋」営んでいた。言徳の次男が幽谷である。水戸藩士となり、幽谷は水戸藩三代藩主に仕えた（6代治保、7代治紀、8代齐脩）信頼もされ重く用いられた。幽谷の次男が東湖である。水戸9代藩主齐昭の側近として藩政改革を推進したと同時に、藩の枠を超えて国難に立ち向かった。安政の大震で死去。

日本一聳え立つ
一乗院毘沙門天



②一乗院毘沙門天

飯田にあり、法満山一乗院千手寺。真言宗。創建は至徳3年（1386）。現常陸太田市稻木開基は快範上人恵海である。佐竹義信が水戸城入場とともに、現水戸市台町にあった天台宗薬王院を真言宗に改め水戸一乗院となる。佐竹氏が国替えになると、水戸光圀の命により、元禄13年（1700）現那珂市飯田の久福寺に移され現在に至る。境内には日本一の毘沙門天像や正月のだるま市、骨董市、秋の菊祭りでぎわいます。文化財・木造阿弥陀如来像・木造毘沙門天像（県指定）・木造聖徳太子立像・木造弘法大師座像（市指定）

酉の市 大鳥伝説



③鷦鷯神社

鴻巣鷦鷯の宮にあり、天日鷦鷯命を祀ります。伝説では「昔この地に松の大木があり、その高さは90丈、毎年一羽大鳥が巣を造っていた。この鳥が坤の方から白いお札をくわえてきたので、村人は不思議に思い神官に祈祷してもらったところ「武州日鷦鷯の神」というのでこの地に大同24年（807）4月18日に建立したといわれています。この伝説から鴻巣という地名が生まれたといわれています。最近は酉の市が毎年開かれています。
天然記念物・大杉・ウワミズサクラ（市指定）

筑波神社 縁結び万能神



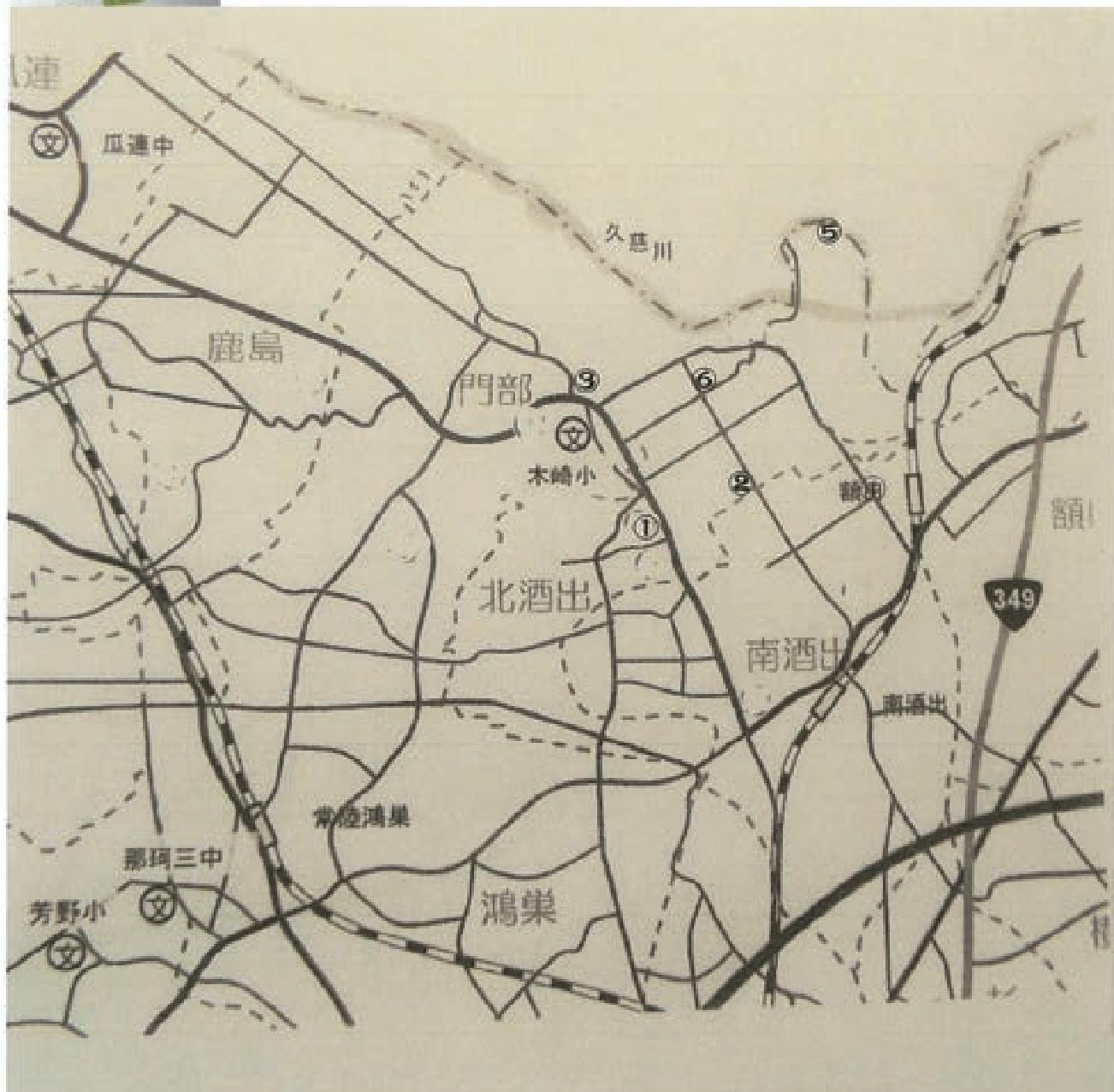
④筑波神社

飯田にあり、祭神は伊弉諾命・伊弉冊命の夫婦の神が祭られています。夫婦和合、縁結び万能である。元享年中（1321～23）紀州熊野本宮より分霊されたと伝えられている。初めは熊野権現を祀り、別当は久福寺で、その後一乘院が別当になり、天保15年水戸九代藩主齊昭が唯一神道と称して社号改め筑波神社とし神官が祭祀することになり、現在に至る。

※伊弉諾命（いざなぎのみこと）※伊弉冊命（いざなみのみこと）



木崎地区スポット



- ①駒形神社 ②着龍寺 ③門部ひょっこ踊り ④北向き地蔵尊 ⑤粟原の釣り場
⑥白河内古墳群

モデルコース 木崎交流センター→駒形神社→着龍寺→北向き地蔵尊→粟原の釣り場
→白河内古墳群→木崎交流センター戻り
※時間車約2時間 距離6km トイレ、駐車場あり



伝統文化・自然を大切に！

木崎地区スポット

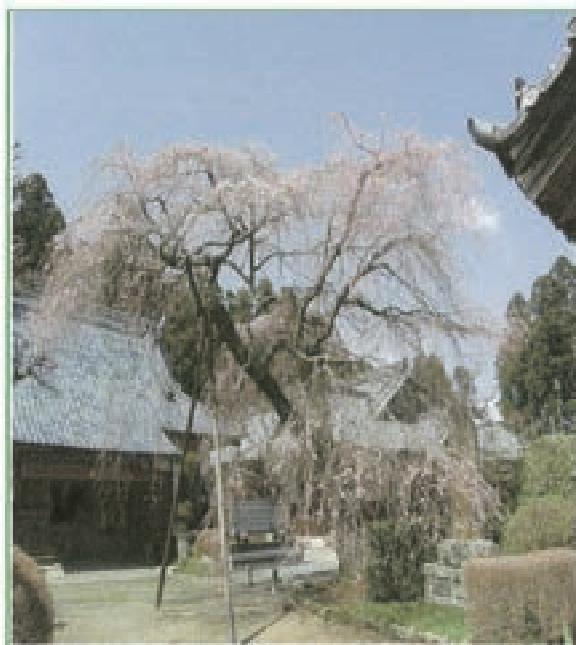
駒形神社
奉る馬の革毛



①駒形神社

南酒出にあり、保食神を祀り、ご神体は革毛馬です。創立は不明。八幡太郎義家が後三年の役に向かう時、戦勝を祈願したという。本殿は稀に見る立派な建築で浮彫の彫刻で囲まれています。一面は竜宮城、二面は八幡太郎義家であった。残念なことに昭和20年(1945)米軍の進駐軍に配慮して義家の二面は削られてしまった。

蒼龍寺
千波から曳かれた鶴の一聲



②蒼龍寺枝垂れ桜

南酒出にあり、太湖山蒼龍寺。曹洞宗。元弘元年(1330)建立の松花山高泰院があった。後に水戸光圀の命により廃寺になり、水戸の千波から新たに太湖山蒼龍寺が曳き寺された。その後何度か火災に遭い、文化7年に再建された。

文化財・木造阿弥陀如来立像(市指定)

天然記念物・カヤの木樹齢500年(市指定)

伝統芸能 門部のひょっこ踊り



③門部ひょっこ踊り

門部にあり、ひょっこ踊りは昭和46年に古き伝統文化を後世に伝承するのに結成された。独特な笛、太鼓、絃の調子乗って、ひょっこ、おかげの面をつけ、衣装は袴半纏、はしまき、もんべ姿で、面白く可笑しく踊ります。
由来は、今から900年前八幡太郎義家が東北鎮圧の任を得て軍を進める途中この地に陣を構えた折り、兵士たちの疲れを慰めようと里の人々が面白く可笑しく踊ったのが始まりです。
無形民俗文化財(師指定平成21年)

耳地蔵尊・安産北向き地蔵尊 ・ご利益



④北向き地蔵尊

南酒出にあり、民話の一つです。南酒出の台地に、北向に安置されている地蔵尊です。地域の人たちにより、旧6月14日は祭りが行われます。安産、ご利益、難聴に良いと、多くの人が参詣しています。

粟原の郷 あわばらのさと

いつも賑わう 釣り人で

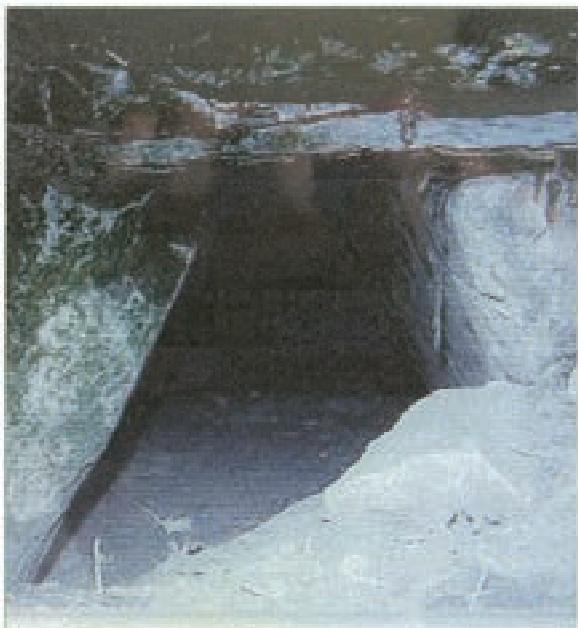


⑤粟原の釣り場

門部にあり、粟原の釣り場は、蛇行する久慈川を大規模な河川改修により流れを換えたために形成された湖である。面積は約37,000m²有する釣り場である。
春は桜、秋はひ赤トンボが群がって飛ぶ自然豊かな郷です。
主な魚は、ヘラブナ、コイ、ナマズ、ブラックバス、ブルーギル、ハヤなどです。
ヘラブナの釣り名所として、広く知られています。

白河内古墳群 しらこうふんぐん

水鳥の 口マン漂う

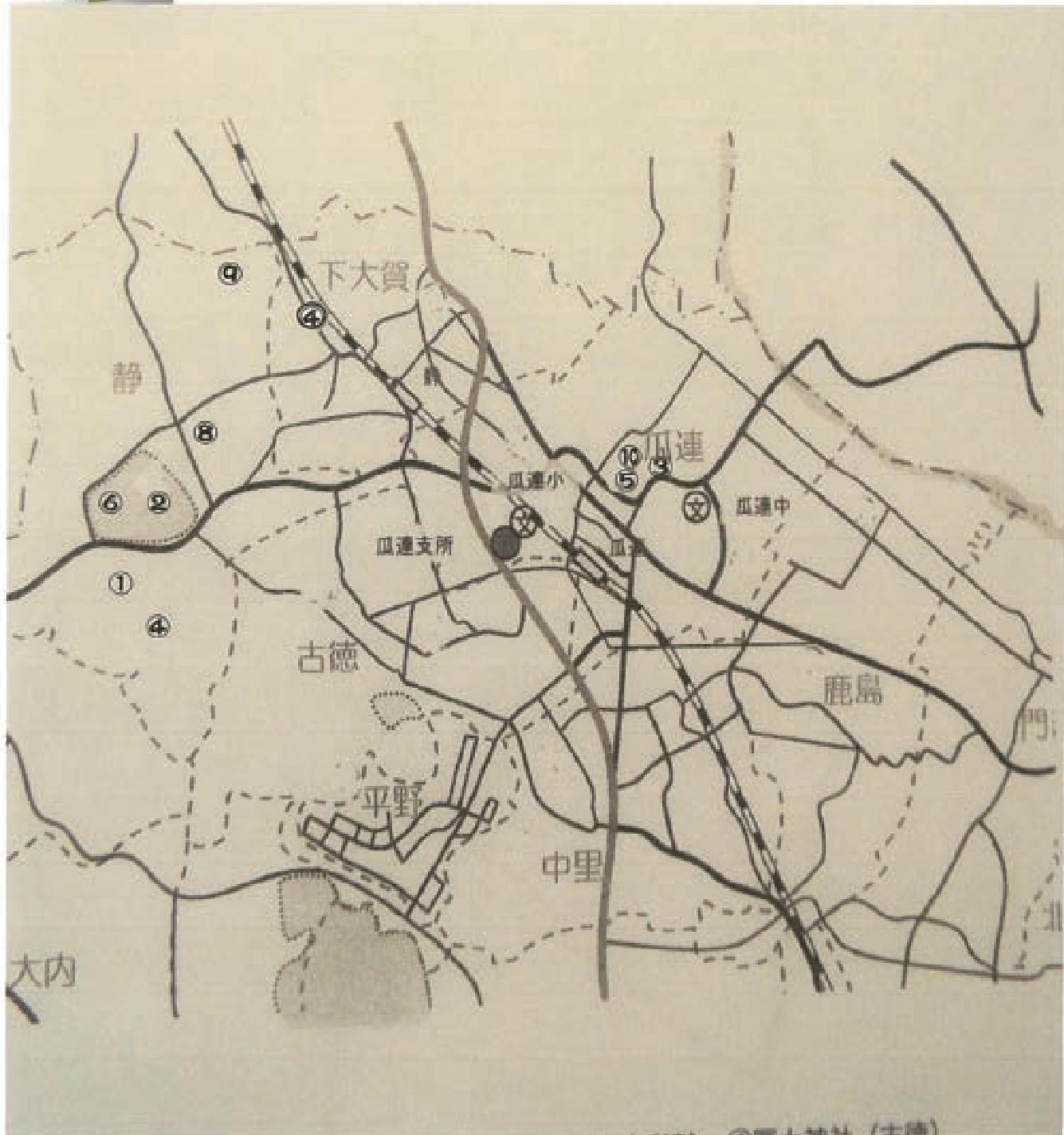


⑥白河内2号古墳

門部にあり、白河内公民館の東側の台地に分布しています。前方後円墳1基、円墳8基、形状不明7基があります。
2号古墳は、直系12m、高さ1.2mの古墳です。内部には7世紀初頭時代のものと推定される水鳥の線刻画発見されました。
文化財史跡・白河内古墳群(市指定)
※いずれも個人所有のため見学は許可を得ること。



瓜連地区スポット



- ①斎藤監物の墓 ②常陸二宮静神社 ③瓜連城跡 ④弘願寺 ⑤常福寺 ⑥静峰あるさと公園
⑦古檍沼 ⑧静の椋の木 ⑨椎原塚古墳 ⑩源太郎稻荷

モデルコース 常福寺→瓜連城跡→源太郎稻荷、→弘願寺→静の椋の木（桂木稻荷）→静神社→ふるさと静峰公園→斎藤監物墓→古徳沼→常福寺戻り
※時間徒歩約5時間・距離10km、トイレ、駐車場あり



観光資源・自然・歴史・伝統・文化財・大切に！

瓜連地区ポイント

斎藤監物 桜門として
に名残す



①斎藤監物の墓

静にあり、静神社の神官であった斎藤監物は安政7年（1860）3月3日桜田門外の変に参加した18人（水戸藩浪士17人、薩摩藩浪士1人）の1人です。重傷を負い老中脇坂邸に直訴し斬奸趣意書提出し、安政7年3月8日吟味中死亡。

辞世の句「君がため、積る思ひも天つ日に、とけてうれしき今朝の淡雪」

歴史あり 呼ばれる杜に お静さんと



②常陸二宮静神社

静にあり、東国の三守護神として鹿島神宮、香取神宮、静神社崇敬されていました。お静さんと親しまれ、初詣、節分祭、神事の「つた舞え」「お筮明神」が行われます。秋の大祭（11月25日～27日）は多くの近郷近在の参詣客でにぎわいます。

文化財・銅印（国指定重要・昭和29年）・紙本着色三十六歌仙（県指定・昭和37年）
・陣太鼓（市指定・平成17年）

瓜連城跡 南北朝興亡 歴史に残る



③瓜連城跡

瓜連あり、建武3年・延元元年（1336）楠木正家によって築かれた。南北朝時代南朝方の楠木正成の代官正家が守り、佐竹氏と対峙、同年佐竹義高に責められ落城し廃城になった。城の規模は東西南北約700mで多くの遺構が残されている。現在の常福寺本堂が本丸跡とされている。

史跡・瓜連城跡（県指定）

弘願寺 くすぐり地蔵尊 民話が残る



④弘願寺

下大賀にあり、帝青山弘願寺。臨済宗。佐竹貞義によって創建され、山門の両側に仁王像が睨みを訊かせています。昔は静神社境内にありました。徳川光圀の寺社改革により、現在の地に移りました。天保年間（1830～44）に、水戸藩の寺社改革により廃寺になり、明治12年（1872）に復興する。静寂な境内には、くすぐり地蔵尊などがあります。くすぐり地蔵尊は身代わり地蔵尊として多くの人々が参詣しています。

文化財・瀧見觀音図（県指定）・版木金剛般若波羅密教（市指定）

六夜尊

ろく や さん

賑わう常福寺

にぎ じよふくじ みせ

参道の夜店

さんどう の よよ



⑤常福寺宵夜幕

瓜連にあり、草地山蓮華院常福寺。浄土宗。南北朝時代の延元年間に（1336～1339）に了實上人によって開山。嘉慶2年（1388）焼失し、応永12年（1405）第二世了誓上人によって瓜連城跡に再建された。慶長7年（1602）佐竹氏が秋田に国替え後、水戸徳川家の菩提寺となり保護されてきました。通称六夜尊（二十六夜尊）第二世了承上人への報恩の大法要を行う例祭を言う。文化財・捨遺古徳伝九巻・豊年上人像（国指定重要）・阿弥陀如来像（県指定）・史跡・瓜連城跡（県指定）

八重桜

や え さくら

静峰ふるさと公園

しずみね こうえん

日本百選

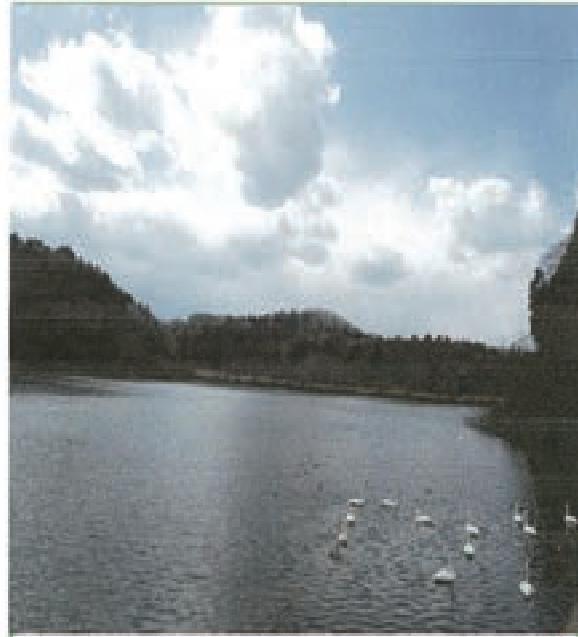
にほん ひやく せん



⑥静峰ふるさと公園

静にあり、公園は、「日本さくら名所100選」に選ばれた八重さくらの名所として広く知られています。園内は約12haあり自然の丘陵地を利用した広々とし約2100本の八重桜が満開時には壮観です。四季折々に咲く梅、ソメイヨシノ、つつじ、アジサイが彩を添えます。多くの多くの家族連れて賑わいます。

古徳沼 麗しき 白鳥の飛来し



④古徳沼

瓜連古徳あり、農業用水のため池として、現在も約5ha灌漑として利用されています。オオハクチョウの飛来は1966年（昭和41）12月末、成鳥1羽、幼鳥2羽、家族で翌年3月17日まで越冬していました。白鳥の餌付けを始めたのは飛来から30年目からです。その後越冬する白鳥が増え続け、平成2年には238羽となり、関東一の越冬地になっています。例年11月上旬の紅葉の時期から4月上旬の桜の咲く時期まで、移り行く景色とともに水面を優雅に泳ぐ姿が見られます。

静の棕の木 伝説残る 八幡太郎義家



⑤静の棕の木

静にあり、桂木稲荷境内に県指定の天然記念物「静の棕の木」があります。推定樹齢900年、樹高30m、目通り8m、枝張り東西南北17m棕の木の北限されています。伝説によれば、八幡太郎義家が1086年、奥州征伐の途中当神社に戦勝を祈願したり、持参した鞭を境内に差し忘れたものが根付いたと伝えられています。

天然記念物・静の棕の木（県指定）

権現塚古墳 伝説残るほのぼのと



⑨権現塚古墳

静にあり、5世紀末ころに築造されたもので、築造時の規模は、全長50m、前方部幅30m、後円部35m、高さ5m前後と推定される。

現在は、全長31m、前方部幅20m、後円部19m、高さ3mです。
被葬者は静神社祭人と深い関係があったものと推定される。

源太郎稻荷 民話四匹の狐 長男



⑩源太郎稻荷

瓜連にあり、瓜連城跡の中にあり民話四匹の狐長男源太郎稻荷。

大昔、静の青木山の森に四匹の兄弟の狐が仲良く暮らしていました。名前は一番目は源太郎、二番目は甚二郎、三番目は紋三郎、四番目は四朗介と言いました。村人はいつのころからこう呼んでいました。でもそのころ、あちらこちらで、仲間が悪知恵を働かし人をだましり、田畑を荒らしたり、いたずらして人々を困らしていました。ある日、それを見かねて四匹の兄弟狐は相談しました。・・・・那珂市の民話参照。

那珂市の民話＆伝説

①額田のたつあいの話

☆筑波山のつかえ棒

昔「たつあい」といううそつきの名人が額田にいた。

ある日、西の国で一番のうそつきがたつあいの評判を聞いてうそくらべにやってきた。道で遊んでいた子どもに、「額田のたつあいの家はどこだ」と、聞くと、子どもは、「たつあいはうちの父ちゃんだ。今朝、筑波山がでんぐりかえりそうだと言うので、つかけい棒にするせ線香三本持つて山へ行ったから、父ちゃんはいねえ」と言った。

西の国のうそつきは「子どもでも、こんなでけえうそをつくんだから、おやじはどんなにすげえかわからねえ」とぶつたまげて逃げ帰った。

実は子どもは「たつあい」であったのだ。

☆飛ばされたお寺の鐘

ある日、隣村のうそつきが額田に来て、「たつあいどんよ、ゆんべ大風が吹いてお寺の鐘が飛ばされちまつたんだ。額田のあたりにふっ飛んできたんだが、わかんねえけ」と言った。たつあいは「ああ、お寺の鐘か。おれげの裏山の竹やぶにな、クモの巣にでつけい鐘が引っかかるっていたっけ、熊手で落として持ってきてな」と、言った。

隣村のうそつきは「参った、参った」と言いながら、帰って言ったそうだ。

☆あわて者のたつあい

ほらふき名人、額田のたつあいは、大変な慌て者でした。

たつあいは、馬を連れ朝飯前に山に草刈りに行くのを日課にしていました。

その馬は、もとはといえば、水戸の殿様の一番お気に入りの馬でしたが、たつあいが得意のほらでだまし、自分のものにしてしまったのです。

ある朝、井戸端で顔洗いながら、「おつかあ、草刈りに行くから馬の支度くれ」と言いました。市は楽すると「飼葉をあげて戸口につないでおいたよ」と、かつかあの声がした。

たつあいは、いつものように馬を引いて出かけ、やがて山道にさしかかりました。すると、手綱め感覺がいつもと違ひ、引っかかるように重いのです。そこで、振り向いてみると、引いていたのは何と、こたつやぐらでした。

ぶりぶり怒りながら家に戻ると、馬は戸口にちゃんとつながれているではありませんか。

「なんてこった。これから山に出かけたんじゃ、朝飯までには戻れねえ。おつかあ、でっかい握りめしを作ってくれ」と言いました。おつかあは、赤ん坊の頭くらいの大きなおにぎりを作ると「上がり口に置いといたよ」と声をかけた。

たつあいは、風呂敷に包み馬の背にくくりつけると、もう一度山に向かいました。草刈りもひと段落つき、腹も減ってきたので飯にしょうとたつあいが風呂敷包みを開けてみると中に入っていたのは漬物石だったのです。

たつあいは、ぶんぶん怒って戻るなり「おつかあ、俺に漬物石を食わせる気か」と、怒鳴りつけました。

すると、「おや、何のことだね。お宅はお隣だよ」と、隣のおかみさんがふっと吹き出しながら言うのです。

たつあいは、あわて自分の家に帰り、「いやあ、俺はあわてものものなんだ、ただいまは間違ひすみません。どうぞ勘弁を…」と、自分のおつかあに、誤ったということです。

②北向き地蔵尊

久慈川べり、額田駅に近い南酒出の丘陵地に、柔軟の顔をした地蔵尊が、北向きに安置されている。人々はこれを「北向き地蔵尊」と呼んでいる。

最近まで久慈川べり一帯は、しばし洪水に悩まされてきた。いつの頃か明らかではないが、ある大洪水の時である。

対岸の小島（常陸太田市）にあった地蔵尊が、この地に流れ着いた。「これは、もったいないことだ」。と言って、村の人々はさっそく總出で、地蔵尊を南側に向けて安置し、ねんごろに供養した。

ところが、その晩のことである。ひっそりと静まり返った地蔵の森のほうから人の泣くような声が聞こえてくる。その声は夜明けまで続いたという。村の人々は、気にながら夜を明かした。

明くる朝早く、地蔵の森に行ってみると、昨日南側に向けて安置した地蔵尊は北に向いているのではないか。「どうしたことだろう・・」

村の人々は元通りに向き直して帰った。地蔵尊はその晩も、次の晩も、しばらく夜泣き続いたという。

秋の取入れも進んで、小春日和のある日のことである。村の人々が集まって何かひそひ話し合っていると、地蔵尊が何かを言っているようである。耳を澄まして聴いていると「北が恋しい、北が恋しい」。地蔵尊の声である。それで、村の人々はこの地蔵尊を北向きに安置することにした。それ以来、地蔵尊の夜泣きがやんだという言い伝えられて。いる。

③大蛇の話

昔額田にお城があったころの話。

額田城主小野崎照通の家臣に、武藤彦次郎という武士がいた。彦次郎は、ある夜半、城中の用事を済まし、足軽藤藏一人を連れて城を出ると、千石溜のほとりに出た。

すると、急に生臭い風が吹き出し、四方の草木が揺れ動くので不思議に思い、大木の陰に身を隠して闇の中を透かして見ると、若く美しい女の姿が現れ、女は城を目指していくようす。彦次郎は「これはまさしく敵のまわしものが女に化けて、城の秘密を探りにと来たのだろう」と察した。

当時の、石神（東海村）の城主越前守通長と額田城主とは、従兄弟の間柄でありながら仲が悪く開戦一步手前の形成を示していた。

彦次郎は、そっとその女に追いすがり、女の後ろ姿めがけて抜きうちに切りつけた。

すると、若い女性はたちまち正体をあらわし、約3m余りの大蛇となって、深紅の口を開き、炎のような舌を1m出して、彦次郎を一飲みにしようとした。

その瞬間に、彦次郎の名刀に神靈が宿り、大蛇は切りつける名刀の下を避けて逃げ出した。彦次郎は、1.5mばかり追いかけが、姿を見失い元の所に戻り、腰を抜かしていた藤藏を助けて、灯を運んでみると地上に大きな鱗が3枚が落ちていた。

翌朝見ると、大蛇の血がその辺に流れ、千石溜の水は朱に染まっていたという。

大蛇の鱗を直ちに照通の見参に供えると、並びいる家臣の面々は皆目を丸くして驚き、彦次郎の武勇はもちろん、照通の賞するところとなつた。

3枚の鱗は1枚は城に主獻上し、1枚は氏神の額田神社に奉納し鎮守の宝物とし、残りの1枚は彦次郎の宝物としました。

④四匹の狐

大昔、静の森に四匹の兄弟狐が住んでいました。そして森の台地を挟むように、2本の川が西北から東に向けてゆるやかに流れていました。その川の名は北側を久慈川、西側を那珂川と呼ばっていました。

四匹の狐の一番目が源太郎狐、二番目が甚二郎狐、三番目が紋三郎狐、四番目が四朗介狐と言いました。誰が名前を付けたのか、里の人々はいつのころからこう呼んでいました。

ある日、兄弟狐は相談しました。

「わたくしたちは、人間の持っていない神通力というものがある。この力で人間のできないところを助けてやろう。私達の仲間にも悪い心を持っていて、悪知恵を働く者もいる。こうした性の悪い狐仲間の罪滅ぼしのためにも、私達四匹の兄弟狐は力を合わせ人間に協力することにした」と誓いあつたのです。

一番年長の源太郎狐が口を切りました。「私は長男だから本家のこの里を守らなければならない、幸いこの里には大きな川がある。私は、その川の守る役につくから、甚二郎以下のものは、それぞれ地方に出て、その地の開拓に協力するように」。

甚二郎狐は答えました、「それでは私は野を守りましょう」。

紋三郎狐は、「それでは私は山を守りましょう」と言いました。

四朗介狐は、私は一番若く元気があるから海を守りましょう」といい相談はまとまりました。それから四匹の兄弟狐は、山野、河川あるいは大海原を昼夜なく駆け回り、大活躍したのです。

源太郎狐は、大小の河川からは魚貝類から瑠璃石の発見となり、清水の湧く谷川では、芹などの栽培を教えました。

甚二郎狐は、田畑の開墾に力をかし、灌漑、稲作などを教え、持ち前の神通力を発揮しました。

紋三郎狐は、家の建築に欠かせない土台石、木材を切り出し、植林いたしました。

四朗介狐は、川にいない大きな海の魚の居場所を知らせ、人間の生活に一番大切な塩づくりの方法を教えました。

遠い遠い昔の国から、はるばる命を懸けて稻の穂をくわえてきた狐の手柄を第一に、楮や麻の茎の発見による白帛（しろきぬ）綾織の人間への知恵づけ、金銀鉱脈、瑠璃石からの火の発見、衣食住の装飾化など、さらに山野からの芹、ヨモギの採りだし、人間の寿命を保つ薬草の発見、そして稻は米となり、お酒になるなど兄弟狐の影の協力は、人間の生活を衣食住にわたって、おおいに高めてくれました。この兄弟狐の神通力が後世、多くの人々に崇敬されることになりました。

やがて人々が増え、豪族を生み、各地に大きな館やお城が建ち、四匹の狐はそれぞれ守り神として迎えられました。

源太郎狐は、瓜連城に、甚二郎狐は本米崎城に、紋三郎狐は笠間城に、四朗介狐は湊城に、としてそれぞれの郷土の稻荷神社として広く國中から崇敬され現在に至っています。

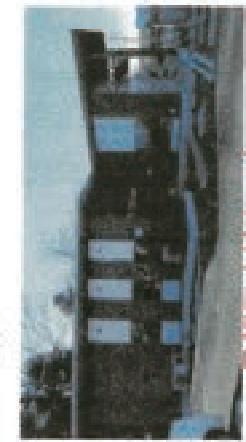
源太郎稻荷様は、永く商人や百姓さんに信仰されてきましたが紋三郎の笠間稻荷ほどではありません。

アコヤがいて田んぼの城跡

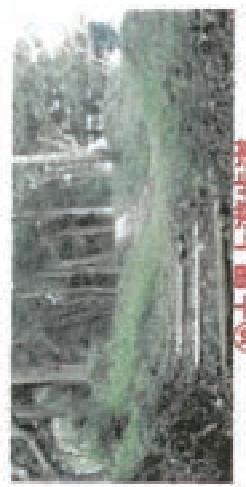
常磐高速道路那珂インター下り国道349号
常陸太田市方面新田西交差点右へ約5分
額田交流センター駐車場。

☆城跡には杉の木立ちや樹齢300年と推定されるヒイラギ、サクラ、ヤツツバキ、カジ、竹林その他の約200種類の植物が見られます、城跡全体は保存会によってよく整備され、大人から子供まで周回できる遊歩道が整備されています。距離約3.9km、時間約40分です。※コース例・交流センター出発①～⑩交流センター戻り

至国道349
学童保育所側



那珂市額田南郷・額田城跡遊歩道案内図



一人・ひとりが観光資源・自然・歴史・伝統・文化財を大切に



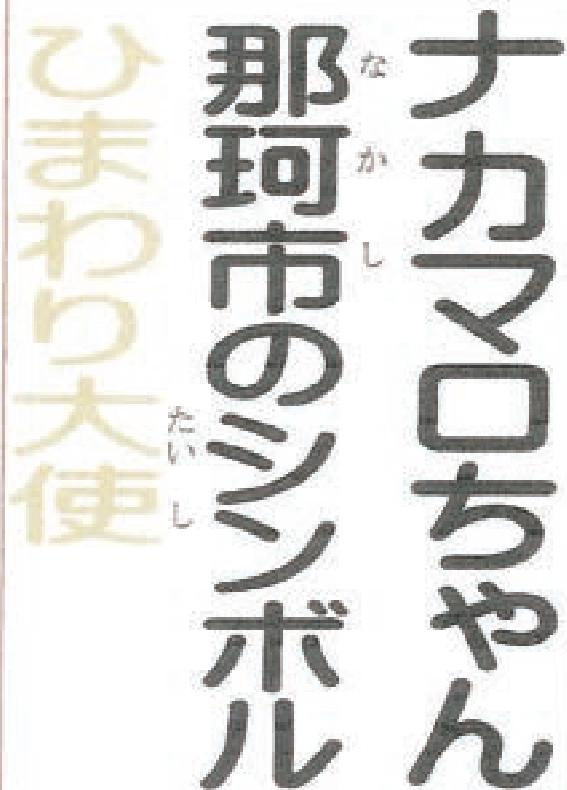
問い合わせ・観光ボランティアガイド那珂

電話・090-2412-8305小田部達

HP

検索
額田城跡保存会

いい那珂暮らし



ナカマロちゃん

通称ナカマロちゃんです。2009年那珂市商工会のマスコットキャラクターとして誕生いたしました。男かな、女かな、年齢は?、毎日楽しく市のPRに各地のイベントで、太陽のように明るく、ひまわりのように元気な笑顔で頑張っています。
ナカマロちゃん、那珂市のシンボル、ひまわり大使です。よろしく！

△モード

那珂市おもてなし・観光ボランティアガイドマニュアル（2016/12/01）

編集・発行・観光ボランティアガイドマニュアル那珂

事務局・那珂市額田北郷538-10

担当小田部一志

電話・090-2412-8305

MEMO

MEMO